



公益財団法人

大阪産業局

O.B.D.A. OSAKA BUSINESS DEVELOPMENT AGENCY

ベトナム情報レポート（2023年3月31日）

（公財）大阪産業局 ベトナムビジネスサポートデスク  
株式会社NCネットワーク

### 【ベトナムの人口、1億人突破へ】

ベトナム統計総局によると、2022年4月1日時点でのベトナムの人口は9920万人であり、今年4月中旬に1億人を超えると予測されています。これが実現すると、ベトナムは世界で15番目、東南アジアで3番目（インドネシア2億7000万、フィリピン1億1000万）となる人口1億人以上の国家になります。

ベトナムは2007年から“人口黄金期”に入りました。“人口黄金期”とは、労働人口（15歳～64歳）の比率がそれ以外の年齢層の2倍を超えるか、それ以外の年齢層の全体に占める比率が50%未満となる期間を指します。2022年の労働人口は5150万人前後です。研究者によると、ベトナムの労働人口は70%近くが農村に集まっており、このことは今後ベトナムが工業化、都市化を進め、労働生産性の向上と経済力のアップを目指す余地があることを示しています。

人口黄金期のメリットは何と言っても豊富な労働力ですが、多くの専門家が懸念し指摘していることは、現在は数の優位性があるだけで、労働者の質が低いという点です。統計では、専門技術を持っている労働者は30%に満たず、そのうち大学以上を卒業している労働者は僅か6.1%です。街中では、大学を卒業しても希望の職に就けず、バイクタクシーの運転手をしている若者もいます。ベトナムの労働生産性はシンガポールの11%、韓国の23%、日本の24%とも言われており、人口黄金期というアドバンテージを活かして労働生産性を上げることが喫緊の課題です。

人口増の一方で、2011年にベトナムは高齢化社会（※1）へ突入。労働力の比率は毎年微減し、2036～2038年頃には高齢社会（※2）になることが予測されています（2019年の人口に占める高齢者率は11.86%。2029年に16.66%、2049年に26.10%になる予測）。ベトナムは他国と比べて高齢化社会から高齢社会までのスピードが速いと言われており、このまま何も手を打たないと20年後に非常に困難な社会が待ち受けていると専門家は警鐘を鳴らしています。

30～35年続くとされるベトナムの人口黄金期は半分近くが過ぎようとしています。既に高齢社会に入っている他国を研究し、ベトナムが同じ轍を踏まないことを願うばかりです。

（※1）高齢化社会：65歳以上が人口の7%超

（※2）高齢社会：65歳以上が人口の14%超